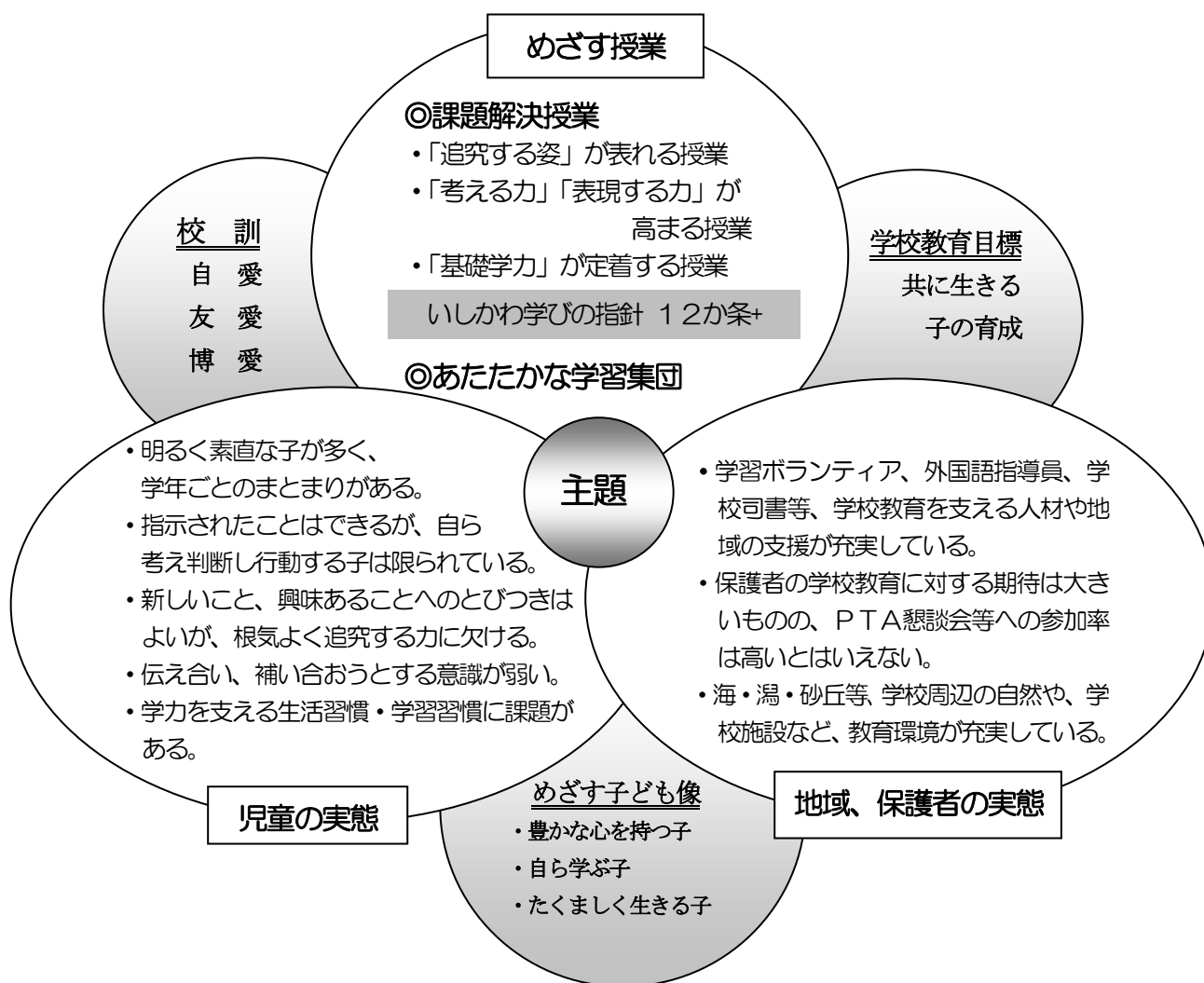


# V. 現職教育

## 1. 研究主題

**自ら考え、追究する子をめざして**  
～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～

## 2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、平成19年度から、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿がみえる授業づくりを目指し、実践を積み重ねてきた。

本校が考える「自ら考え、追究する子」とは、

課題を見出し、個や集団の中で、既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決や達成に向けて考え、それを表現し合うことで学びを深めるとともに、さらに新たな課題を生み出し追究し続ける姿

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度は、話すこと・聞くことの指導の工夫を行い、児童一人一人に相手意識をもった「話す力・聞く力」を身につけさせることで、本校が目指す児童の姿にせまろうと実践を行ってきた。その成果として、次の点が挙げられる。

- 「相手に分かりやすい説明の仕方とは、どのようなものか。」「どのような聞き方がよいのか。」について、児童にモデルを示すことができた。
- 全校で理由を付けて発言する児童、友達の考えに対して反応を返す児童、学習用語や提示されたキーワードを根拠として使う児童が増えてきた。

特に、学習に意欲的な低学年の段階において、相手意識をもった「話し方・聞き方」について丁寧に教え、ほめて育てる指導方法が適切であったことも明らかとなった。しかし、高学年では堂々と意見を述べる児童を増やすことができたとは言えず、自分の考えに対して自信がもてず、依然として小さい声のままの児童や聞き手に回っている児童も少なくない。全校的にも自己肯定感が低く、指示されたことはできるが自ら考え判断し行動する子は限られているのが現状である。これは、児童の問題意識が高まる課題の設定や発問、場面の設定が十分な授業づくりができていないため、主体的な児童が少ないと考えられる。また、昨年度2月に行った校内到達度評価の結果から根拠を明確にすることも課題として挙がっている。

そこで、今年度は、児童の追究意欲を高め、根拠や筋道を明確に表現させるような授業づくりを積み重ねることで、自分の理解を確かなものにし、みんなで学び合うことにおける考えの深まりや良さに気づいたりして、新たな追究意欲をもつ児童を育てたいと考えた。そのため、副題を【「わかった、できた」と実感できる授業づくり】とし、研究に取り組むことにした。

### 3. 研究の仮説

授業者が、児童の問題意識が高まる課題の設定や発問を行うことで、児童の追究意欲が高まり、考えや根拠、理由が明確になる話し合いとなり、主体的に友達と関わりながら学びを深め、児童が「わかった、できた」と実感できるだろう。このように実感する児童は、新たな課題について「自ら考え、追究する力」をつけていくだろう。

#### 4. 研究の重点と具体的な取組

「わかった、できた」と実感させるために、以下の二点について取り組んでいく。

##### (1) 問題意識が高まる課題づくり

児童の実態に応じて、適切で効果的だと考えられる学習課題や言語活動を工夫する。

- ・ 単元全体を貫く言語活動、自分の考えを様々な方法で表現させる場や習得した知識を活用する場を教科の特性も生かして単元や1時間の授業の中に位置づける。
- ・ 課題は、多様な思考ができるもの、根拠や筋道が明確に表現できるもの、思考を深めることができるようなものにする。

学習課題や言語活動を設定する際には、「追究したい」という意欲を高めるために、課題をもつまでの過程を工夫する。「あれ?」「どうして?」「考えてみたい!」「やってみたい!」という児童の思いを引き出すようにすれば、主体的に追究していくことができるだろう。児童の思考の流れを大切にしながら、学習課題や言語活動を設定し、目的意識を継続してもてるようにしていきたい。

##### (2) 根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

- ・ 児童に表出させたい「考え・根拠・理由」を授業者が明確にとらえる。
- ・ 表現をする際には、昨年度取り組んだ「話し方名人・聞き方名人」を継続して活用していく。  
 「話し方名人」…児童が筋道を明確にして、相手により分かりやすい伝え方が出来るように、「考え・根拠・理由」を明確にさせる指導を行う。  
 「聞き方名人」…自分の考えを深めるための聞き方の視点をもたせる指導を行う。

根拠をもとに筋道を立てて考えを表現する場とは、個の追究・集団の追究の場が考えられる。考えを書く時、伝える時には、何をもとにして考えたのか「根拠」を示し、なぜそう考えられるのか「理由」をはっきりと表現させることが必要である。このことが「そうか。」「なるほど!」という納得感を生むことにつながっていく。また、聞き手は、表出された考えを的確にとらえ、自分の考えと比較しながら違いや共通点を見出したり、友達を考え方をもとに新たな考えを生み出したりしていくようにしたい。このような経験を積み重ねることで、「わかった、できた」と実感し、追究する力を高めていきたい。しかし、児童の発言の中には、根拠や理由が不明確なものが少なくない。そこで、何を根拠として考えさせてねらいにせまっていくのかを授業者が明確にして授業に臨むことで、児童の発言の不足している部分を発問や問い返しによって気づかせ、表現させることができると考える。



授業づくりシート	
～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～	
名前( )	( )
月 日( ) 限 教科( )	( )
単元・題材名(主題・単元・学習項目)	( )
課題(主発問)	( )
まとめ	( )
① 問題意識が高まる課題の設定や発問、場面の設定について(導入)	
② 根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫(学び合いの)	
振り返り	
<small>※補足事項・「単元・題材名」「課題」「まとめ」「キーワード」は、実践前に記入しておく。          ・「課題」に本表を貼る。          ・①、②どちらか一つ選んで取り組んでも良い。</small>	

以上の取組について、日々の授業・研究授業を通して、全員で共通理解しながら成果を積み上げる。週に1時間、授業づくりシートを用いて、教職員一人一人が成果と課題を明確にしていく。学期末に低・中・高学年ブロックで成果と課題についてまとめるを行い、研究を進めていく。

## 5. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

### (1) 基礎的な学力・表現力の向上・学びの定着

#### ① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・ 8 : 10 ~ 8 : 20 の10分間、担任の指導のもと、取り組む（職員朝礼がある月曜を除く）
- ・ 学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

曜日	内 容	
月	読 書	・ 読書
火	AKBタイム	活用力向上のための課題 ・ 根拠や筋道を明確にして表現させる表現力の向上のための課題 ・ 本校児童の課題の克服のための課題 (学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用)
水	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・ 繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・ 家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 (国語) 漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など (算数) 四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など
木	読 書	・ 読書
金	外 国 語	・ ALT、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ ・ 外国語活動、外国語での授業でのアクティビティ、チャンツの復習など ・ 映像教材の利用 ・ エンカウンター要素を含んだ外国語でのゲーム活動

#### ② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・ 10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・ 家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定  
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定  
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習  
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・ 学習日より「CATCHBALL」・「家庭学習のてびき」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・ 家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

#### ③ 読書活動の充実を図る

- ・ 朝読書（毎週月曜・木曜）、読書週間の設定
- ・ 図書室イベントの開催
- ・ 地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」（月1回）
- ・ 家庭読書の日の設定（毎月23日のいしかわ学校読書の日、長期休業中の親子読書）

#### ④ 各種学力調査により、児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服のための取組を実施する

- ・ 全校挙げての組織的な弱点克服・指導改善の取組の推進  
学力調査実施後、速やかな採点・分析・取組の実施  
教科部会を組織し、採点の実施、指導改善・弱点克服の取組の検討と実行
- ・ 各学力調査の過去問題の活用（朝学習・単元末テスト）
- ・ 朝学習の計画的なプリント学習（AKBタイム）  
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力調査問題の活用
- ・ 到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後・長期休業中 等）
- ・ 校内学習到達度調査の実施により、活用力・表現力の伸長と指導改善を図る

## ⑤ 学習規律の確立を図る

- ・学習の構えについての全校共通指導  
あたりまえにできること（習慣化すること）を目指す  
学習だより・清湖できるよカードによるふりかえりの場の設定
- ・ノート指導の充実  
ノートの書き方についての全校共通指導  
より良いノート作りのためのノート掲示

## （2）教師の指導力の向上を図る

### ① 授業研究の実施

- ・研究授業には外部講師を招聘。視点を明確にして協議を行う
- ・研究授業通信を発行し、授業整理会後の成果と課題を共有し、明確になったことを共通実践にいかす
- ・日常的な授業研究を進められるよう授業公開時間を各教職員が毎週1回設定し、相互授業参観を行う

### ② 校内職員研修の実施

- ・全職員が参加し、組織的に実施  
(得意分野のポイントやお互いの研究に対する取組を紹介し合う、研修の成果を報告する など)

## （3）よりよい実践を積み重ねていくための検証方法の具体化

児童の変容・取組の成果についての検証の方法・観点を明確化し、学力調査や児童の姿、アンケート等などを活用した検証を行い、その結果をもとに、さまざまな方策や研究推進体制の改善を図る。

### ① 学力調査・単元末テスト

国・県・町学力調査（4月／4・5・6年）、評価問題（11月・2月／5年）、  
校内学習到達度調査（2月／1～4年、6年）

- ・課題を把握し、その課題の改善が図られているかを、正答率・解答状況で検証
- ・校内到達度調査は、学力調査等で課題になった点が改善されているか、根拠や筋道を明確に表現する力が身についているかどうかを検証するため、問題を自作するなど工夫して実施

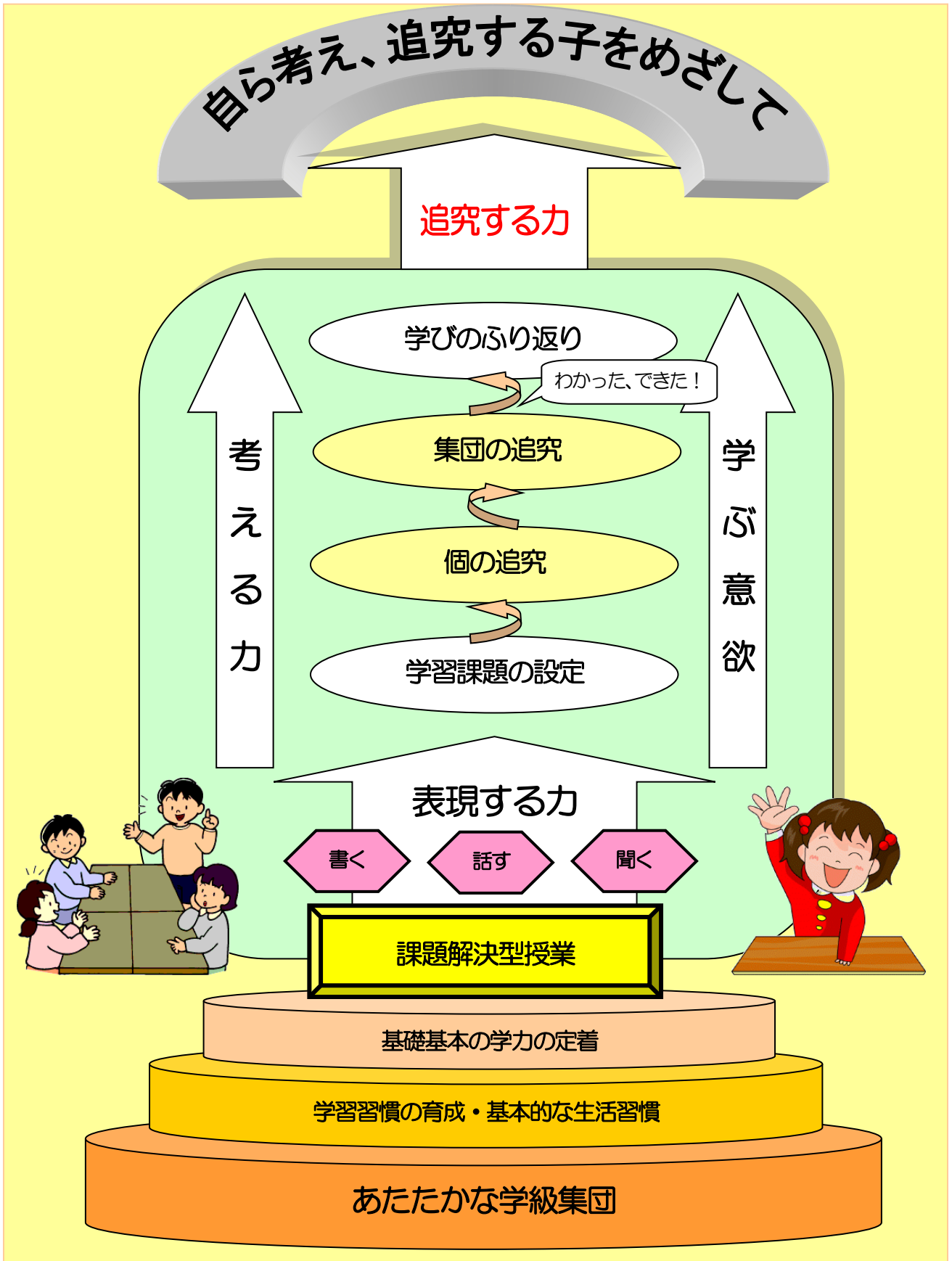
### ② 家庭学習・漢字・計算ステップアップ週間

- ・家庭学習 … 学年目標時間の達成日数の変化で検証
- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 問題を初見で「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

### ③ 学校評価、児童・教職員アンケート、清湖できるよカード

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

6. 研究構想図



# 課題解決型授業

児童

教師

- あれ？不思議だな。
- なぜだろう？
- 考えてみたい、やってみよう。
- どのようにしたらいいかな。
- 何かきまりがあるのでは？
- ○○ができるように  
取り組んでいこう。

## 課題の設定



- 自分の力で考えてみよう。
- できないところを  
できるようにしたい。
- 前に学んだことを使ったら  
解決できないかな。
- 理由をはっきりさせよう。
- 他のやり方でやってみよう。

## 個の追究

自分の考えをわかりやすく伝えよう  
これまでに学んだ学習内容や  
伝え方を使って表現しよう

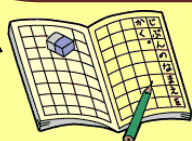
- みんなの考えを聞きたい。
- 自分の考えと同じだ。
- ○○という点では、少しちがう  
ところがあるぞ。
- どんなことを言いたかったのか  
質問してみたい。
- なるほど、そんな考えも  
できるのか。

## 集団の追究



- 課題に対する答えが  
はっきりしたぞ。
- はじめの自分よりも考えが深  
まった。
- ○○さんの考えの方は、  
とてもわかりやすかった。
- ○○を使って考えたらできた。
- 学習用語を使い、根拠を  
はっきりさせてまとめよう。
- 次はこれを考えてみたい。

## 学びのふりかえり



- ☆追究意欲が高まる  
単元構成や課題の工夫
- 主体的に課題をもてる工夫
- 根拠や筋道を明確に表現できる課題づくり
- 単元のゴールを見通した課題づくりと  
効果的な言語活動の設定

- ☆「書くこと」の充実を図る
- 基本的な書くためのアイテムを獲得させる  
(ノートの書き方の指導・ワークシートの工夫  
教科に応じた表現方法の指導 など)
- 既習事項をふりかえり、  
考えをもつことにつながる教室掲示

既習事項・アイテム  
を活用させる

- ☆「話す力」「聞く力」をつけ、  
話し合いの充実を図る
- 考えを伝えるためのアイテム  
(基本的な話し方)を獲得させる
- 思考を深め、ねらいにせまるための発問
- 授業の流れが分かり、  
気づきが生まれるような板書の工夫
- 考えを高めるための適切な場を、  
目的をもって設定する

- ☆変容を実感するための  
ふり返りの場をもつ
- 本時をふりかえり、自らの変容を  
自らの言葉でまとめるための時間の確保
- どんなよさがあるのかを明らかにし、  
次の意欲になるような朱書きの工夫
- 児童にみられたよさを広める機会の設定  
(学びのあしあとを記したノート交流など)